

子や孫の世代に平和なくらしを引き継ごう
ねむろ「九条の会」と市民団体等が憲法記念日の集会開催

5月3日、1947年の施行から78年目の憲法記念日にねむろ「九条の会」と戦争させない・9条壊すな！総がかり行動根室実行委員会は、「2025憲法記念日 根室集会」を開催。小雨と強風の中、根労連など8団体16名がプラカードを手にリレートーク。道行く人々に「憲法をいかに、命と暮らしを守るう」などアピールを街頭から行いました。

ねむろ「九条の会」共同代表の神忠志氏は開会あいさつで、物価が高騰しているのに、国の予算はくらしや福祉・教育費に比べて、防衛予算の伸び率が異常に高い問題を指摘し、アメリカのやり方についていくだけの政権で良いのかと批判。また「私たちの憲法は人類の進むべき方向をはっきりと示した。現実の世界、現実の社会を、この憲法の法則に従って変えていくことがいま求められている」と訴えました。

参加した市民団体によるリレートークでは、根労連の坂本事務局長は「争いを戦争ではなく対話で解決しよう」というのが2度の世界大戦を経て人類が到達をした歩み。日本の憲法を生かした対話による平和の枠組みづくりの先頭に政府が立つことを求められている」と述べました。

日本共産党の鈴木一彦市議は「戦後、自衛隊が戦闘で命を落とす、命を奪うことが無かったのは戦争放棄の憲法があったからこそ。平和憲法と権力をしっかりと監視する日本国憲法を私たちはしっかりと守り、これからの世代に引き継いでいく」と決意を述べました。

集会の閉会あいさつで立憲民主党の中村久市議は広島原爆死没者慰霊碑に刻まれている「過ちは繰り返しませんから」という文言について、碑文を制作した雑賀忠義教授が「過ちを繰り返さない」という主語は私たちが全世界の人々であると説明していることを紹介。「こうした考えから戦争の悲惨さや憲法を考えるきっかけになって欲しい」と呼びかけました。

またこの集会には立憲民主党の篠田奈保子衆議院議員より『不断の努力が必要で。憲法は私たちが、声を上げ、行動しなければ守れません。これからも引き続き、みなさまと共に連帯していきます』とのメッセージが寄せられました。

初の津波避難艇
花咲港に設置される

4月25日、花咲港の東埠頭に根室市では初めてとなる「津波避難艇」が設置されました。定員25名で、一週間分の食料や毛布、トイレ、流されても位置が衛星で測定される救難信号の装置が備えてあります。識別性の高いインターナショナルオレンジ色の船体は対衝撃性の高いFRP製で沈まない構造となっており、また水面で逆さまになっても復元するそうです。

設置場所は住民の居住地域から少し離れており、主に岸壁で作業している方が利用することを想定していると思われます。

先進地の施策を根室市でどう活かすか
会派紬さんと「行政視察報告会」を開催しました

4月26日、根室市議会の会派紬の須崎議員と日本共産党市議団（鈴木・橋本）は、市総合文化会館で「行政視察報告会」を開催し、二つの市議会常任委員会や学んだ先進地の施策を、根室市政にどのように活かしていくべきか、市民の皆さんに報告し、意見交換を行いました。

根室市議会の文教厚生常任委員会は昨年10月に秋田県大館市や山形県酒田市などを視察。また総務経済常任委員会は今年1月に兵庫県西宮市や県の災害対策センター、豊岡市に行政視察を行っています。各自自治体で取り組まれている先進事例を学ぶための公的な行政視察ですが、今回の「報告会」は須崎議員と鈴木議員、橋本がそれぞれ「議員個人としてどのよう」に受け止め、市は今後どうしていくべきかについて参加された市民の方に話し、また参加者からの意見も伺いました。

はじめに須崎議員から大館市のふるさとキャリア教育の取り組みについて報告しました。これらの取り組みにより大館市の子ども達は「自己肯定感」が向上し、地元への就職率も高まったそうです。

根室の小中、高校も新しい取り組みを模索しています。しかし大館市はこれまで15年以上の実績があり、根室で結果が表れるまで一定の時間がかかることから、地域に「自分が必要とされている」ことが実感できる取り組みを時間をかけて継続していくことが大切と述べました。

鈴木議員は酒田市の「駅前交流拠点ミライニ」について報告しました。駅前の空き地を活用して、中央図書館と民間のホテルやマンション、レストランなどを複合施設として建設運営されています。

根室市でも様々な公共施設の老朽化が深刻で、建て替えが大きな課題となっています。そうした中で複合化や民間との連携をどうするのか、鈴木議員は酒田市で行われたように、市民とこうした問題について繰り返し何度も議論を重ねていくプロセスが重要であることを説明しました。

橋本は豊岡市のジェンダーギャップ解消の取り組みについて報告しました。豊岡市の優れている点は、若者が地元に着しない要因を市が詳細に調査を行い、大学などと協力して分析してきたこと。またその取り組みを市役所だけでなく多くの民間事業所や地域の方々と巻き込んで地域全体で取り組みを進めて来た点にあります。

根室市でもこうした手法を積極的に検討する必要があります。会場の参加者からは「地域のコミュニティづくりが重要で、そのためには市もまた各職場でも人々とのコミュニケーションが大切にされてなければならない」との意見が述べられました。